

未来航路
年金総額保証型特別勘定年金特約付変額個人年金保険(2005)

未来航路Two プレミアム **未来航路Two**
変額個人年金保険(2005)【みらいこうろ トゥー】 変額個人年金保険(2005)【みらいこうろ トゥー プレミアム】
変額個人年金保険(2005)【みらいこうろ トゥー】 変額個人年金保険(2005)〈保証金額付特別勘定終身年金特約／年金総額保証型特別勘定年金特約〉

特別勘定運用レポート

(組入投資信託の運用状況)

特別勘定の名称	投資信託の名称	投資信託の運用会社	ページ
バランス25	バランスファンドVA25A	ステート・ストリート・グローバル・ アドバイザーズ株式会社	1
バランス37.5	バランスファンドVA37.5A		2
バランス50	バランスファンドVA50B		3
マザーファンドの状況			4

特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって

当資料をご覧ください際にご留意いただきたい事項

- ・当資料は既に当商品にご加入されたご契約者に対し、三井住友海上プライマリー生命の未来航路〔年金総額保証型特別勘定年金特約付変額個人年金保険（2005）〕、未来航路 Two〔変額個人年金保険（2005）〕、未来航路 Two プレミアム〔変額個人年金保険（2005）＜保証金額付特別勘定終身年金特約／加算年金 1 年更新特則付保証金額付特別勘定終身年金特約／年金総額保証型特別勘定年金特約＞〕の特別勘定および特別勘定が主たる投資対象とする投資信託の運用状況を開示するためのものです。なお、商品の詳細につきましては、商品パンフレット、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をご覧ください。
- ・当資料に記載されている運用実績等に関する情報は過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、〔組入投資信託の運用状況〕に記載されているコメント等は当資料作成時点の見解に基づくものであり、予告なく変更されることがあります。
- ・〔組入投資信託の運用状況〕は、運用会社が作成する運用報告を三井住友海上プライマリー生命が参考情報としてそのまま提供するものであり、内容に関しては、三井住友海上プライマリー生命の責めによるものを除き、三井住友海上プライマリー生命は一切の責任を負いません。

この保険商品についてご確認ください事項

■市場リスクについて

この保険は、払込みいただいた保険料を投資信託等を投資対象としている特別勘定で運用し、その運用実績に基づいて将来の死亡保険金額、解約払戻金額、および年金額等が変動（増減）するしくみの生命保険商品です。特別勘定の資産は、主に国内外の株式・債券等に投資する投資信託を通じて運用されるため、株価や債券価格の下落、為替の変動等により、解約払戻金等のお受取りになる合計額が払込まれた保険料を下回る可能性があります。損失が生じるおそれがあります。これらの特別勘定の運用に伴うリスクはすべてご契約者に帰属します。

■ご負担いただく費用について

この保険では、契約初期費用、保険関係費および資産運用関係費等をご負担いただきます。また、一定期間内にご契約を解約・一部解約する場合には、所定の解約控除がかかります。詳しくは次ページ「諸費用について」をご参照ください。

■その他

- ・変額個人年金保険は特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、ご契約者が投資信託を直接保有するものではありません。
- ・特別勘定のユニットプライスの値動きは、特別勘定が投資対象とする投資信託の値動きと必ずしも一致しません。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有することがあることや、ユニットプライスの計算に当たり保険関係費等の費用を控除すること等によるものです。

特にご注意ください事項

年金総額保証型特別勘定年金特約をご選択された場合、年金受取総額の最低保証は、年金総額保証型特別勘定年金の受取期間満了を迎えることにより保証されますので、年金受取開始時や年金受取期間中に一括受取や一般勘定で運用する年金種類に変更した場合には、年金受取総額の最低保証はありません。

諸費用について

この保険の費用の合計は、以下の費用の合計額となります。

ご契約時にご負担いただく費用

項目	目的	費用	時期
契約初期費用	当保険契約の締結などに必要な費用	一時払保険料の3%	特別勘定への繰入前に、一時払保険料から控除します。



ご注意

増額した場合にも、契約初期費用として増額保険料の3%が控除されます。

特別勘定での運用期間中にご負担いただく費用

1. すべてのご契約者にご負担いただく費用

下記の費用を控除した上で、ユニットプライスは計算されます。

項目	目的	費用	時期
保険関係費	当保険契約の締結および維持などに必要な費用ならびに死亡保険金・災害死亡保険金等を支払うための費用	積立金額に対して年率2.30% ^{*1}	積立金額に対して左記の年率の1/365を乗じた金額を毎日控除します。
		加算年金1年更新特則を付加した場合 積立金額に対して年率2.45% ^{*2}	
資産運用関係費	投資信託の信託報酬など、特別勘定の運用にかかわる費用	全ての特別勘定共通 年率0.33%程度 (消費税込)	各特別勘定の資産残高に対して左記の年率の1/365を乗じた金額を毎日控除します。

*1 保証金額付特別勘定終身年金特約または年金総額保証型特別勘定年金特約の費用（積立金額に対してそれぞれ年率0.8%）を含みます。

*2 加算年金1年更新特則の費用（積立金額に対して0.15%）を含みます。



ご注意

- 資産運用関係費は信託報酬を記載しています。この他、信託財産留保額、有価証券の売買手数料、運用関連の税金、監査費用等がかかる場合がありますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。これらの費用は特別勘定がその保有資産から負担するため、特別勘定のユニットプライスに反映されることとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。
- 資産運用関係費は、運用手法の変更、運用資産額の変動等の理由により、将来変更される可能性があります。

2. 下記のお取扱いの場合に別途ご負担いただく費用

特別勘定のユニットプライスを計算した後に特定の契約者にご負担いただきます。

項目	費用	時期
積立金移転手数料	1 保険年度に 15 回目までは無料 1 保険年度 16 回目以後の移転について 2,500 円/回	移転時に積立金から控除します。
解約控除	解約するとき	経過年数に応じて、 払込保険料総額に対して 1~4% 解約時・一部解約時に積立金から控除します。
	一部解約するとき	

※ 一部解約請求金額が払込保険料総額を上回る場合には、解約控除対象額は払込保険料総額を上限とします。一部解約の際に解約控除対象額として取扱われた金額については、以後の解約控除対象額の計算の対象とする払込保険料総額から控除して取扱います。

※ 契約日（増額日）から 10 年未満で一般勘定で運用する定額年金へ変更した場合には、契約日（増額日）からの経過年数に応じた解約控除がかかります。

<解約控除率>

契約日(増額日)からの経過年数	1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上 4年未満	4年以上 5年未満	5年以上 6年未満	6年以上 7年未満	7年以上 8年未満	8年以上 9年未満	9年以上 10年未満	10年以上
解約控除対象額に対する解約控除率	4%	4%	4%	3%	3%	3%	2%	2%	1%	1%	0%

一般勘定で運用する年金支払期間中にご負担いただく費用

下記の年金管理費を年金支払開始日以後ご負担いただきます。（遺族年金支払特約による年金も含みます。）

項目	費用	時期
年金管理費	年金額に対して 1%	年金支払開始日以後、年金支払日に責任準備金から控除します。

※ 上記費用は上限です。なお、年金支払開始日時点の費用を年金支払期間を通じて適用します。

作成基準日：2022年4月28日

バランスファンドVA25A<適格機関投資家限定>月次報告書

設定・運用：

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ(株)

ファンドの特色

- ①日本株式インデックス・マザーファンド受益証券、日本債券インデックス・マザーファンド受益証券、外国株式インデックス・オープン・マザーファンド受益証券、および外国債券インデックス・マザー・ファンド受益証券に投資し、内外の株式・公社債への分散投資をすることにより長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。
- ②基本配分比率は国内株式15%、国内債券40%、外国株式10%、外国債券35%とします。
- ③上記の基本配分比率には各資産毎に一定の変動幅を設けます。また、市況動向等の変化に応じて当該基本配分比率の見直しを行う場合があります。
- ④実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対しては原則為替ヘッジを行いません。ただし、運用効率の向上を図るため、為替予約取引等を活用する場合があります。
- ⑤運用の効率化を図るため、株価指数先物取引および債券先物取引等を活用することがあります。
- このため、株式および債券の組入総額と株価指数先物取引および債券先物取引等の買建玉の時価総額の合計額が、信託財産の純資産総額を超えることがあります。

ファンドの状況

●基準価額等

	基準価額	前月末比
基準価額	17,882円	-150円
純資産総額	15,081百万円	-312百万円

※1) 基準価額は信託報酬控除後です。

※2) 純資産総額は百万円未満四捨五入

信託財産の構成

	基準日現在	目標資産配分	差異
日本株式マザー	14.9%	15.0%	-0.1%
日本債券マザー	40.1%	40.0%	0.1%
外国株式マザー	9.7%	10.0%	-0.3%
外国債券マザー	35.1%	35.0%	0.1%
コール他	0.3%	0.0%	0.3%
合計	100.0%	100.0%	0.0%

(注)対投資信託財産総額比

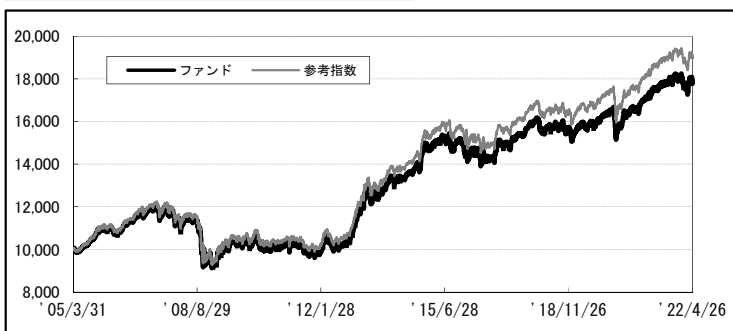
基準価額の騰落率

ファンド設定日：2005/3/31

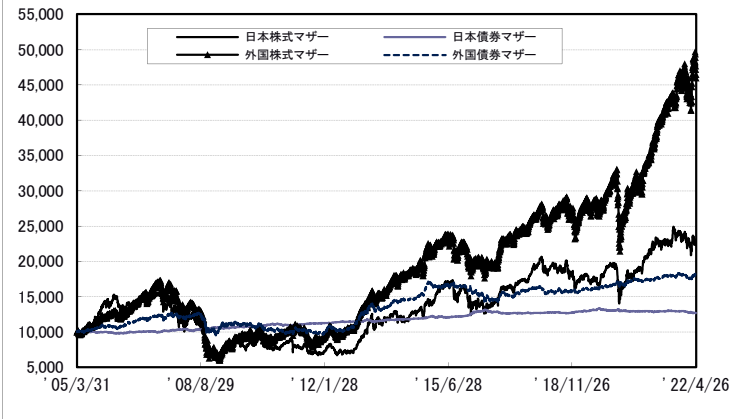
	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	-0.83%	1.86%	0.84%	-1.39%	1.89%	12.21%	78.82%
参考指数	-0.80%	1.93%	0.95%	-1.20%	2.26%	13.46%	90.72%
差	-0.03%	-0.08%	-0.11%	-0.19%	-0.37%	-1.25%	-11.90%

(注)参考指数は、当ファンドが組入れている各資産(マザーファンド)のベンチマーク収益率に、各基本資産配分比率を乗じて当社にて算出したものです。

基準価額の推移(当ファンド)



【ご参考】マザーファンドの推移



注：2005/3/31を10,000として指数化しています。

◇4月の市場動向◇

【国内株式】4月の国内株式市場は、米株高や円安などが相場を支えましたが、米金融引き締め強化に対する警戒感から下落しました。

【国内債券】4月の国内債券市場は、インフレの加速に対する警戒感と海外債券金利の上昇が債券の売り圧力となったものの、日銀が金融緩和と政策維持を決定し金利変動幅の抑制を堅持する姿勢を示したことで月間では金利は小幅な動きとなりました。日本10年国債利回りは前月末から0.01%上昇の0.23%となりました。

【外国株式】4月の海外株式市場は、世界的なインフレ懸念を背景とする金利の上昇基調や長引くウクライナ情勢の混乱を嫌気して軟調な展開となりました。地域別の月間騰落率は世界的にリスクオフの動きが広がる中、米国市場が9%強の大幅下落となったのに対し、欧州市場が1%以内、アジア市場が2%前半の下落に留まりました。

【外国債券】4月の海外債券市場は、3月に開かれた米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録の内容や積極的な利上げを支持する米連邦準備制度理事会(FRB)政策担当者の発言などが債券の売り材料となりました。米国10年債利回りは前月末から0.59%上昇の2.93%となりました。

☆この報告書は、受益者の皆様へ当ファンドの運用状況をお伝えすることを目的として作成したもので、投資の勧誘を目的とするものではありません。☆当ファンドは、主に国内外の株式や債券を投資対象としています。組入れた株式や債券の値動き、為替相場の変動等により基準価額が上下しますので、これにより投資元本を割り込むことがあります。また、組入れた株式や債券の発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込むことがあります。これに伴うリスクはお客様ご自身の負担になります。☆投資信託は預金ではないため、預金保険制度の対象にはなりません。また、証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。元本の保証はありません。☆資料中のグラフ、表、その他データにつきましては、過去のデータに基づき基準日現在にて作成したものであり、将来を予測するものではありません。

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

作成基準日：2022年4月28日

バランスファンドVA37.5A<適格機関投資家限定>月次報告書

設定・運用：

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ(株)

ファンドの特色

- ①日本株式インデックス・マザーファンド受益証券、日本債券インデックス・マザーファンド受益証券、外国株式インデックス・オープン・マザーファンド受益証券、および外国債券インデックス・マザー・ファンド受益証券に投資し、内外の株式・公社債への分散投資をすることにより長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。
- ②基本配分比率は国内株式20%、国内債券30%、外国株式17.5%、外国債券32.5%とします。
- ③上記の基本配分比率には各資産毎に一定の変動幅を設けます。また、市況動向等の変化に応じて当該基本配分比率の見直しを行う場合があります。
- ④実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対しては原則為替ヘッジを行いません。ただし、運用効率の向上を図るため、為替予約取引等を活用する場合があります。
- ⑤運用の効率化を図るため、株価指数先物取引および債券先物取引等を活用することがあります。
- このため、株式および債券の組入総額と株価指数先物取引および債券先物取引等の買建玉の時価総額の合計額が、信託財産の純資産総額を超えることがあります。

ファンドの状況

● 基準価額等

		前月末比
基準価額	20,434円	-261円
純資産総額	8,658百万円	-174百万円

※1) 基準価額は信託報酬控除後です。

※2) 純資産総額は百万円未満四捨五入

信託財産の構成

	基準日現在	目標資産配分	差異
日本株式マザー	19.9%	20.0%	-0.1%
日本債券マザー	30.0%	30.0%	0.0%
外国株式マザー	17.1%	17.5%	-0.4%
外国債券マザー	32.8%	32.5%	0.3%
コール他	0.2%	0.0%	0.2%
合計	100.0%	100.0%	0.0%

(注)対投資信託財産総額比

基準価額の騰落率

ファンド設定日：2005/3/31

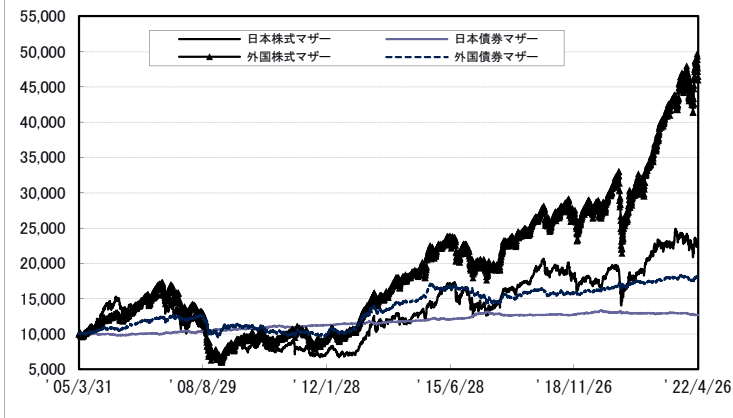
	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	-1.26%	2.36%	1.36%	-1.29%	3.19%	18.01%	104.34%
参考指数	-1.22%	2.45%	1.49%	-1.07%	3.62%	19.19%	117.29%
差	-0.04%	-0.09%	-0.13%	-0.22%	-0.43%	-1.18%	-12.95%

(注)参考指数は、当ファンドが組入れている各資産(マザーファンド)のベンチマーク収益率に、各基本資産配分比率を乗じて当社にて算出したものです。

基準価額の推移(当ファンド)



【ご参考】マザーファンドの推移



注：2005/3/31を10,000として指数化しています。

◇4月の市場動向◇

【国内株式】4月の国内株式市場は、米株高や円安などが相場を支えましたが、米金融引き締め強化に対する警戒感から下落しました。

【国内債券】4月の国内債券市場は、インフレの加速に対する警戒感と海外債券金利の上昇が債券の売り圧力となったものの、日銀が金融緩和と政策維持を決定し金利変動幅の抑制を堅持する姿勢を示したことで月間では金利は小幅な動きとなりました。日本10年国債利回りは前月末から0.01%上昇の0.23%となりました。

【外国株式】4月の海外株式市場は、世界的なインフレ懸念を背景とする金利の上昇基調や長引くウクライナ情勢の混乱を嫌気して軟調な展開となりました。地域別の月間騰落率は世界的にリスクオフの動きが広がる中、米国市場が9%強の大幅下落となったのに対し、欧州市場が1%以内、アジア市場が2%前半半の下落に留まりました。

【外国債券】4月の海外債券市場は、3月に開かれた米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録の内容や積極的な利上げを支持する米連邦準備制度理事会(FRB)政策担当者の発言などが債券の売り材料となりました。米国10年債利回りは前月末から0.59%上昇の2.93%となりました。

☆この報告書は、受益者の皆様へ当ファンドの運用状況をお伝えすることを目的として作成したもので、投資の勧誘を目的とするものではありません。☆当ファンドは、主に国内外の株式や債券を投資対象としています。組入れた株式や債券の値動き、為替相場の変動等により基準価額が上下しますので、これにより投資元本を割り込むことがあります。また、組入れた株式や債券の発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込むことがあります。これに伴うリスクはお客様ご自身の負担になります。☆投資信託は預金ではないため、預金保険制度の対象にはなりません。また、証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。元本の保証はありません。☆資料中のグラフ、表、その他データにつきましては、過去のデータに基づき基準日現在にて作成したものであり、将来を予測するものではありません。

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

作成基準日：2022年4月28日

バランスファンドVA50B<適格機関投資家限定>月次報告書

設定・運用：

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ(株)

ファンドの特色

- ①日本株式インデックス・マザーファンド受益証券、日本債券インデックス・マザーファンド受益証券、外国株式インデックス・オープン・マザーファンド受益証券、および外国債券インデックス・マザー・ファンド受益証券に投資し、内外の株式・公社債への分散投資をすることにより長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。
- ②基本配分比率は国内株式25%、国内債券25%、外国株式25%、外国債券25%とします。
- ③上記の基本配分比率には各資産毎に一定の変動幅を設けます。また、市況動向等の変化に応じて当該基本配分比率の見直しを行う場合があります。
- ④実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対しては原則為替ヘッジを行いません。ただし、運用効率の向上を図るため、為替予約取引等を活用する場合があります。
- ⑤運用の効率化を図るため、株価指数先物取引および債券先物取引等を活用することがあります。
- このため、株式および債券の組入総額と株価指数先物取引および債券先物取引等の買建玉の時価総額の合計額が、信託財産の純資産総額を超えることがあります。

ファンドの状況

●基準価額等

	基準価額	前月末比
基準価額	25,651円	-443円
純資産総額	63,549百万円	-1,706百万円

※1)基準価額は信託報酬控除後です。

※2)純資産総額は百万円未満四捨五入

信託財産の構成

	基準日現在	目標資産配分	差異
日本株式マザー	25.0%	25.0%	0.0%
日本債券マザー	25.1%	25.0%	0.1%
外国株式マザー	24.4%	25.0%	-0.6%
外国債券マザー	25.3%	25.0%	0.3%
コール他	0.2%	0.0%	0.2%
合計	100.0%	100.0%	0.0%

(注)対投資信託財産総額比

基準価額の騰落率

ファンド設定日：2003/8/1

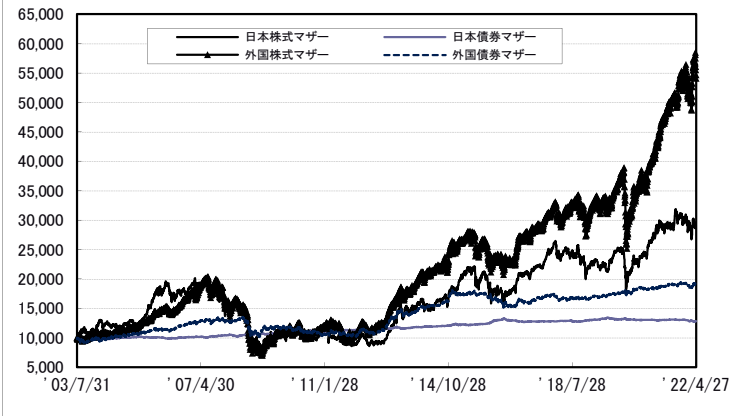
	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	-1.70%	2.69%	1.79%	-1.20%	4.35%	23.11%	156.51%
参考指数	-1.67%	2.76%	1.89%	-1.01%	4.77%	24.18%	175.34%
差	-0.03%	-0.06%	-0.10%	-0.19%	-0.42%	-1.07%	-18.83%

(注)参考指数は、当ファンドが組入れている各資産(マザーファンド)のベンチマーク収益率に、各基本資産配分比率を乗じて当社にて算出したものです。

基準価額の推移(当ファンド)



【ご参考】マザーファンドの推移



注：2003/7/31を10,000として指数化しています。

◇4月の市場動向◇

【国内株式】4月の国内株式市場は、米株高や円安などが相場を支えましたが、米金融引き締め強化に対する警戒感から下落しました。

【国内債券】4月の国内債券市場は、インフレの加速に対する警戒感と海外債券金利の上昇が債券の売り圧力となったものの、日銀が金融緩和と政策維持を決定し金利変動幅の抑制を堅持する姿勢を示したことで月間では金利は小幅な動きとなりました。日本10年国債利回りは前月末から0.01%上昇の0.23%となりました。

【外国株式】4月の海外株式市場は、世界的なインフレ懸念を背景とする金利の上昇基調や長引くウクライナ情勢の混乱を嫌気して軟調な展開となりました。地域別の月間騰落率は世界的にリスクオフの動きが広がる中、米国市場が9%強の大幅下落となったのに対し、欧州市場が1%以内、アジア市場が2%台前半の下落に留まりました。

【外国債券】4月の海外債券市場は、3月に開かれた米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録の内容や積極的な利上げを支持する米連邦準備制度理事会(FRB)政策担当者の発言などが債券の売り材料となりました。米国10年債利回りは前月末から0.59%上昇の2.93%となりました。

☆この報告書は、受益者の皆様へ当ファンドの運用状況をお伝えすることを目的として作成したもので、投資の勧誘を目的とするものではありません。☆当ファンドは、主に国内外の株式や債券を投資対象としています。組入れた株式や債券の値動き、為替相場の変動等により基準価額が上下しますので、これにより投資元本を割り込むことがあります。また、組入れた株式や債券の発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込むことがあります。これに伴うリスクはお客様ご自身の負担になります。☆投資信託は預金ではないため、預金保険制度の対象にはなりません。また、証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。元本の保証はありません。☆資料中のグラフ、表、その他データにつきましては、過去のデータに基づき基準日現在にて作成したものであり、将来を予測するものではありません。

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

日本株式インデックス・マザーファンド

●組入上位10銘柄

	銘柄名	業種	比率
1	トヨタ自動車	輸送用機器	4.30%
2	ソニーグループ	電気機器	2.76%
3	キーエンス	電気機器	1.88%
4	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	1.79%
5	日本電信電話	情報・通信業	1.59%
6	東京エレクトロン	電気機器	1.38%
7	リクルートホールディングス	サービス業	1.36%
8	任天堂	その他製品	1.33%
9	ソフトバンクグループ	情報・通信業	1.22%
10	三菱商事	卸売業	1.22%

●業種別内訳

項目	業種	2022/4/28
国内株式	[全体]	100.00%
	水産・農林業	0.10%
	鉱業	0.34%
	建設業	2.19%
	食料品	3.35%
	繊維製品	0.44%
	パルプ・紙	0.21%
	化学	6.45%
	医薬品	5.30%
	石油・石炭製品	0.47%
	ゴム製品	0.67%
	ガラス・土石製品	0.72%
	鉄鋼	0.82%
	非鉄金属	0.78%
	金属製品	0.56%
	機械	5.21%
	電気機器	17.49%
	輸送用機器	8.33%
	精密機器	2.55%
	その他製品	2.43%
	電気・ガス業	1.22%
	陸運業	3.11%
	海運業	0.59%
	空運業	0.41%
	倉庫・運輸関連業	0.18%
	情報・通信業	8.79%
	卸売業	5.97%
	小売業	4.15%
	銀行業	5.44%
	証券、商品先物取引業	0.75%
	保険業	2.20%
	その他金融業	1.13%
	不動産業	2.01%
	サービス業	5.63%

日本債券インデックス・マザーファンド

●組入上位10銘柄

	投資比率	銘柄名	利率	償還日	2022/4/28
1	1.32%	第146回利付国債(5年)	0.10%	2025/12/20	
2	1.28%	第149回利付国債(5年)	0.01%	2026/9/20	
3	1.12%	第148回利付国債(5年)	0.01%	2026/6/20	
4	1.12%	第428回利付国債(2年)	0.01%	2023/9/1	
5	1.06%	第144回利付国債(5年)	0.10%	2025/6/20	
6	1.05%	第365回利付国債(10年)	0.10%	2031/12/20	
7	1.01%	第145回利付国債(5年)	0.10%	2025/9/20	
8	1.01%	第350回利付国債(10年)	0.10%	2028/3/20	
9	1.00%	第359回利付国債(10年)	0.10%	2030/6/20	
10	0.96%	第364回利付国債(10年)	0.10%	2031/9/20	

* なお、比率につきましては全てマザーファンドにおける現物資産の時価総額に対する比率を表示しております。

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

特別勘定の名称：バランス25,37.5,50

バランスファンドVA25A,37.5A,50Bのマザーファンド

未来航路 未来航路Two 未来航路Two FLM37M

外国株式インデックス・オープン・マザー・ファンド

●組入上位10銘柄

	銘柄名	投資国名	業種名称	比率
1	APPLE INC	アメリカ	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	5.04%
2	MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	3.97%
3	AMAZON COM INC	アメリカ	小売	2.48%
4	TESLA INC	アメリカ	自動車・自動車部品	1.48%
5	ALPHABET INC-CL A	アメリカ	メディア・娯楽	1.35%
6	ALPHABET INC-CL C	アメリカ	メディア・娯楽	1.30%
7	UNITED HEALTH GROUP	アメリカ	ヘルスケア機器・サービス	0.95%
8	JOHNSON & JOHNSON	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	0.94%
9	NVIDIA CORP	アメリカ	半導体・半導体製造装置	0.90%
10	BERKSHIRE HATHAWAY B	アメリカ	各種金融	0.84%

●国別内訳

項目	国名	2022/4/28
外国株式	[全体]	100.00%
	<北米>	77.24%
	アメリカ	73.40%
	カナダ	3.83%
	<アジア・太平洋>	3.74%
	オーストラリア	2.38%
	香港	0.87%
	シンガポール	0.43%
	ニュージーランド	0.06%
	<ヨーロッパ>	18.82%
	イギリス	4.57%
	フランス	3.31%
	ドイツ	2.35%
	スイス	3.08%
	オランダ	1.21%
	イタリア	0.68%
	スペイン	0.69%
	スウェーデン	1.02%
	フィンランド	0.29%
	ベルギー	0.29%
	アイルランド	0.18%
	デンマーク	0.80%
	ノルウェー	0.23%
	ポルトガル	0.06%
	オーストリア	0.06%
	<アフリカ・中東>	0.21%
	イスラエル	0.21%

外国債券インデックス・マザー・ファンド

●国別構成比

項目	国名	国別構成比率(%)			修正デュレーション(年)		
		ファンド	ベンチマーク	差	ファンド	ベンチマーク	差
外国債券	[全体]	100.00%	100.00%	0.00%	7.34	7.33	0.01
	<北米>	51.64%	51.59%	0.05%			
	アメリカ	49.63%	49.56%	0.07%	6.42	6.41	0.01
	カナダ	2.01%	2.03%	-0.02%	7.17	7.15	0.02
	<南米>	0.74%	0.74%	-0.01%			
	メキシコ	0.74%	0.74%	-0.01%	4.93	4.92	0.01
	<アジア・太平洋>	3.96%	4.03%	-0.07%			
	オーストラリア	1.58%	1.60%	-0.02%	7.13	7.11	0.02
	シンガポール	0.43%	0.43%	0.00%	7.70	7.72	-0.02
	マレーシア	0.48%	0.49%	-0.01%	6.84	6.93	-0.09
	中国	1.47%	1.51%	-0.04%	5.51	5.49	0.02
	<ヨーロッパ>	43.23%	43.20%	0.03%			
	イタリア	8.27%	8.25%	0.02%	6.96	6.95	0.01
	ドイツ	6.95%	6.92%	0.03%	7.85	7.86	-0.01
	フランス	9.29%	9.30%	0.00%	8.46	8.43	0.03
	イギリス	5.34%	5.32%	0.02%	12.89	12.92	-0.02
	スペイン	5.54%	5.53%	0.01%	7.56	7.56	0.00
	ベルギー	2.10%	2.10%	-0.01%	9.45	9.44	0.01
	オランダ	1.77%	1.78%	-0.01%	8.77	8.75	0.02
	オーストリア	1.34%	1.35%	-0.02%	9.68	9.63	0.05
	デンマーク	0.40%	0.40%	-0.01%	9.34	9.33	0.01
	スウェーデン	0.28%	0.28%	0.00%	5.79	5.83	-0.04
	フィンランド	0.57%	0.57%	0.00%	7.91	7.93	-0.01
	アイルランド	0.70%	0.71%	0.00%	8.72	8.73	-0.01
	ポーランド	0.43%	0.43%	0.00%	3.89	3.89	0.00
	ノルウェー	0.25%	0.26%	-0.01%	4.37	4.37	0.00
	<アフリカ・中東>	0.43%	0.44%	-0.01%			
	イスラエル	0.43%	0.44%	-0.01%	6.20	6.20	0.00

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

募集代理店

引受保険会社

三井住友海上プライマリー生命保険株式会社

〒103-0028 東京都中央区八重洲 1-3-7 八重洲ファーストフィナンシャルビル

資料請求・お問い合わせ

フリーダイヤル 0120-125-104

<https://www.ms-primary.com>